



1 説明文
 (1)この図は、「月光川水系月光川・庄内高瀬川」「日向川水系日向川」の水位周知区間について、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域、浸水した場合に想定される水深を表示した図面です。
 (2)この洪水浸水想定区域図は、指定時点の月光川・庄内高瀬川・日向川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により月光川・庄内高瀬川・日向川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより予測したものです。
 (3)このシミュレーションの実施にあたっては、支川の(決壊による)氾濫、シミュレーションの前提となる降雨を超える規模の降雨による氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していませんので、この洪水浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

2 基本事項等
 (1)指定の前提となる降雨
 月光川流域で48時間の総雨量616mm(基準点:尻引橋)
 日向川流域で12時間の総雨量326mm(基準点:日向橋)

家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流)(河岸浸食)・早期の立退き避難が必要な区域について
 「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、堤防沿いの地域等において、洪水時に家屋が倒壊するような激しい氾濫流等が発生するおそれが高い区域です。このハザードマップでは、「氾濫流」「河岸浸食」として表しています。この2つに3m以上の浸水区域を合わせた区域は、「早期の立退き避難が必要な区域」です。この区域では、洪水時には避難勧告等に従って安全な場所に速やかに、確実に立退いてください。
 なお、「家屋倒壊等氾濫想定区域」は、一定の仮定を与えて算定していることから、その区域の境界は厳密ではなく、あくまで目安であることに留意してください。具体的な区域の算定にあたっての仮定は、以下のとおりです。

- ・想定している洪水は、その川で生じる最大規模の洪水であり、その洪水により堤防が決壊して氾濫が発生することとしています。
- ・堤防はどの地点で決壊するか分からないことから、各地点で決壊した場合の計算結果を包摂した区域としています。
- ・倒壊等する家屋は直接基礎の標準的な木造家屋を想定しています。
- ・堤防決壊に伴う激しい流れによる家屋の流失、深い浸水に伴い家屋にかかる力が增大して生じる倒壊、河岸浸食に伴う家屋の基礎を支える地盤の流失を想定しています。
- ・堤防の宅地側には家屋がない更地の状態で氾濫計算をしています。

洪水浸水想定 凡例
 浸水した場合に想定される水深(浸水想定区域)

5.0m以上	2階の軒下がつかる高さ
3.0m以上~5.0m未満	1階屋根がつかる高さ
0.5m以上~3.0m未満	床下浸水
0m以上~0.5m未満	

避難場所・避難所

- 避難場所: 一時的な避難先として利用できる施設・場所
- 避難所: 避難の長期化にも対応できる施設
- 防災倉庫: 非常食等の災害用備品補充場所

土砂災害凡例

- 土砂災害特別警戒区域(土石流)
- 土砂災害警戒区域(土石流)
- 土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)
- 土砂災害警戒区域(急傾斜地)

地図凡例

- 町界
- 鉄道
- 主要幹線道路
- 日本海沿岸東北自動車道予定地
- 氾濫流
- 河岸浸食
- 避難方向

浸水が想定される区域における避難行動

凡例	避難行動
が早期の立退きが必要な区域	洪水氾濫により木造家屋の倒壊の恐れがある区域 木造家屋が倒壊するような堤防決壊等に伴う氾濫流が発生する恐れがあることから、早期の立退き避難が必要
避難区域	河岸浸食により木造家屋の倒壊の恐れがある区域 家屋が倒壊するような河岸浸食の発生するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要
	家屋が水没する恐れのある区域 最上階も浸水するおそれがあることから、早期の立退き避難が必要
	床上浸水または床下浸水が想定されることから、立退き避難が望ましいが浸水時に想定される状況を踏まえ、自らの判断により屋内安全確保でも良い。
浸水想定区域外	浸水想定区域内の住民等が避難してくるため、避難の手助けを行う。

避難行動や避難のタイミングは、個々人がおかれた状況によりそれぞれ異なることに注意してください。









